

2021年12月8日

## けやき倶楽部 オンライン会員発表会 報告書

【テーマ】 アフガンの今—紛争と難民そして日本との関連—

【発表者】 村尾憲治氏 会員番号 872

【日 時】 2021年12月7日(火)13:00~14:35

【場 所】 会員自身の自宅(Zoomを使用したオンライン)

【参加者】 65名(事前申し込み 66名)

今年の8月31日にアメリカ軍が撤退し、20年にわたる駐留が終了した。その際の混乱ぶりは連日マスメディアで報道され、まだ記憶に新しいことと思います。古代から東西の交通路であり文明の十字路とも呼ばれるこの地は、今年最も注目された国でもあります。

今回、「多文化共生」に興味を持ち、「移民難民問題」を市民レベルで勉強されておられるけやき倶楽部会員の村尾憲治氏の申し出により、アフガニスタンの近年の歴史や諸問題について発表していただいた。

### 【発表のレジュメ】

1. 地理地図、国の紹介
2. 民族と宗教戦争、大国の介入
3. 米国からみたアフガニスタン
4. タリバンとは
5. 新政権の懸念
6. 日本との関係
7. 日本の中のアフガニスタン人
8. アフガニスタンはどこへ？

### 【発表内容】

パキスタンやイランに囲まれた内陸の国で、民族・宗教抗争、旧ソ連や米国の介入もあり、貧困や難民流出が続いている。この20年の米軍駐留は何だったのか、アフガニスタンの国作りがなぜ出来なかったのか？ タリバン新政権は戦闘には長けているが国の運営は経験不足である。厳格なイスラム教の教えで、特に女性の人権や自由がどうなるか心配である。日本は巨額の平和的開発援助をしてきたが、今後はどうするのか、また中村哲氏の意志をどのように繋いでいけるのか、等々、新政権の内政、外交、人権など、まだ不透明な状況であるが、分かりやすい資料で様々な観点から説明をしていただき、特に一番の弱者である難民に対する受入・支援の早急な対応が必要と力説しておられました。

以上

(文責:千葉)



発表の様子(Zoom画面から)